

サンマリノノ神社建立成なつて

サンマリノ共和国駐日大使

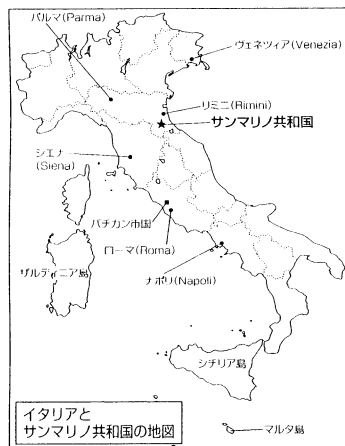
マンリオ・カデロ閣下に聞く

インタビュー



イタリア・シエナ生まれ。パリ・ソルボンヌ大学に留学し、フランス文学、諸外国語、語源学を修得。昭和50年(1975)、来日し東京に移住。平成元年(1989)、在日サンマリノ共和国領事に任命され、平成14年(2002)、特命全権大使となる。聖アガタ騎士勲章を始め多くの勲章を受章。平成23年(2011)、在日外交団長に就任。7か国語を操り、日本語も流暢に話す。

今年6月22日、かつて本誌(25年5月号)でも紹介したサンマリノ神社の鎮座奉祝祭が斎行され、ここにヨーロッパ初の本格的な神社の建立が成就しました。平成19年(2007)より日本サンマリノ友好協会と共に準備を進めてこられたサンマリノ共和国特命全権大使、マンリオ・カデロ閣下に近刊書の紹介と合わせてお話を伺いました。



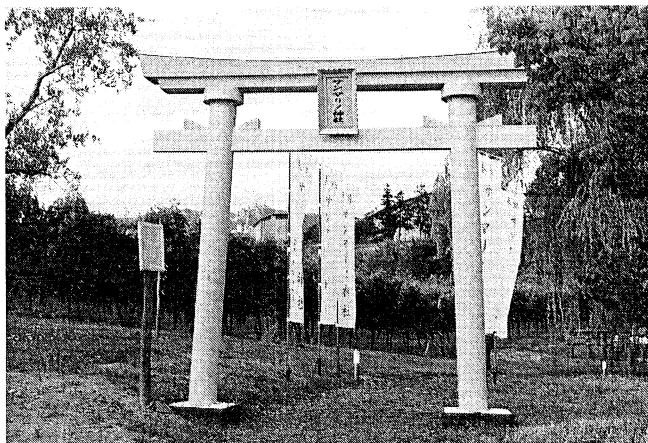
■サンマリノ共和国
イタリア半島の中部、アドリア海に面した町リミニから内陸へ24キロメートルに位置する世界で5番目に小さい国。西暦301年の建国以来今日まで独立を守ってきた世界最古の共和国。



近刊『だから日本は世界から尊敬される』(小学館新書) 720円+税

▼サンマリノ神社鎮座奉祝祭

遅ればせながら、改めてサンマリノ神社建立おめでとうございます。大使 鎮座奉祝祭には、お蔭様で300人が集まって盛会でした。日本人、サンマリノ人、イタリア人、それからロシア人もいました。冒頭、



サンマリノ国歌の演奏に続いて君が代の斉唱がソプラノ歌手、新藤昌子様により行われました。そして、東京大神宮権宮司の松山幾一様より御鎮座のお祭りが厳肅に斎行されました。続いて日本サンマリノ友好協会会長でサンマリノ神社建立実行委員会委員長の新瀬英明先生に御挨拶をいただきました。また、来賓祝辞を安倍総理のお母様、安倍洋子様、そして在イタリア日本国大使館公使の福島秀夫様にいただきました。さらにサンマリノ神社の土地所有者のス



サンマリノ神社本殿。右端の碑に奉賛者の名前が刻まれている。その隣に立つのが宮司のフランチェスコ・ブリガンデ氏。周囲にはお白石が置かれている。

元総理のご長女、安倍晋太郎元外相の奥さま、そして安倍晋三総理のお母さまですね。サンマリノ国会議事堂や博物館などサンマリノ市街をご案内しましたが、大聖堂の階段をてっぺんまで登られたのはそのお元氣さにびっくりしました。また一般の民家で食事をされたのもサンマリノ人の生活を知るきっかけとして気に入られたようです。

— 本誌(25年11月号)でもインタビューさせていただいたフランチェスコ・ブリガンテさんも白衣姿が似合

テファノ・ヴァレンティーニ様より挨拶があり、清興では月妃女神楽様の奉納舞、私の家内、絵里による居合演舞、そして最後に新藤様より歌の披露があり、盛会裏に終わることができました。

— 安倍総理のお母様もご参列になられたのですね。

大使 はい、ご縁をいただき、ありがたいことです。安倍総理からも「母をよろしく」とお手紙を頂戴しました。しっかりと足取りで張りのあるお声で御挨拶されました。さすが岸信介

つておられますね。

大使 神社の管理責任者として改めて気を引き締めていたようです。天照大御神様をお祭りさせていただいたことをとてもよろこんでおりました。自身が経営するホテルから毎日、神社に通って熱心に奉仕しています。本殿の周りに一列お白石を敷きました。

— 伊勢神宮のお白石みたいですね。

大使 そう、そう。この白石はもともと海に由来するもので、サンマリノにはこういう白石があちこちにある。私はこれらを集めておいて、オープニングの前に本殿の周りに置いたのです。

本殿のほかには、鳥居、手水舎、灯籠と一通りそろっています。これらは日本で作られ、解体して船で運び、日本から来ていただいた宮大工さんとサンマリノの職人たちが現地で組み立てました。釘一本使われていない日本の神社建築の技術を学ぶため、建築を学ぶ学生たちが見学にやってきました。さて、鎮座奉祝祭の後は、一組の日本人カップルが結婚式を挙げました。サンマリノ神社前結婚式第一号です。

— その後、人出はいかがですか。

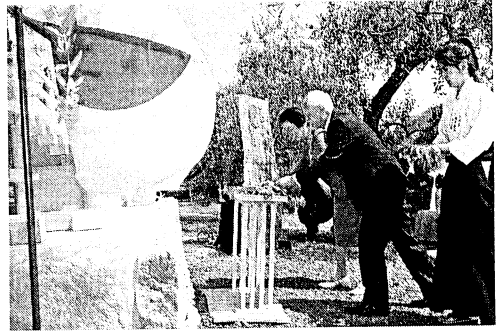
大使 テレビや新聞の報道で知った人達が訪れてくれているようです。まだまだ広報も足りませんが、これから徐々に情報が浸透していけば、ヨーロッパ各地から来てくれると信じています。

余談ですが、ローマの北方にある聖バレンティンの生誕地テルニにある日本庭園の中に神社を建てる計画があると聞いています。直接関係はありませんが、うちに触発されたものらしい。また、ベトナムのハノイにある日本庭園にも神社を建てたいと相談を受けています。サンマリノ神社がきっかけとなって世界に神社の輪が広がっていくといいと思います。

ところで、鎮座祭の後、とても素敵なお祭りがありました。近くのホテルで会食をしたのですが、それが終



神社の隣にあるブドウ畑で収穫されたブドウから作った建立記念のワイン。馬の絵は日本の干支。来年は未(ひつじ)の絵に変わること。



サンマリノ神社に玉串を奉るカデロ大使(中央)と安倍総理のお母様、安倍洋子氏(左)。右端は大使夫人。

わって、もう夜になっていましたが、皆、三々五々再び神社に集まりました。

ちなみに、日本人は自覚してないかもしれませんが、神社は24時間オープンですね。明治神宮や靖国神社など警備が必要な神社もあります。が、それ以外は夜中でも参拝できる。サンマリノ神社も「いつでもようこそ」というわけで、皆、夜に神社に行きました。すると、ホタルが飛び交って神秘的な光景が現出しました。近くに池があつて、そこから飛んできたのです。これには皆感激しました。

サンマリノ神社の周囲には、ヨーロッパで平和の木と考えられている

オリブ畑が広がり、神社の左側にはブドウ畑、右側には池があり、ホタルが生息できる良い環境が整っていると言えるでしょう。

私もその光景を見てとてもうれしくなりました。神社がつくられ、本当によかったと思います。実は、今でもサンマリノに神社ができたことが信じられない気持ちです。ここまですぐやく辿り着いたと感慨深いものがあります。

▽ヨーロッパへの日本文化の発信地として

― 御苦労も多かった。

大使 代理店が建立資金を集めるために神武天皇の御肖像と橿原神宮を象った金貨を発行しました。これらの図案は、とくに日本の若者たちに日本の建國神話は国の財産であることを理解してほしいと願ってつくったものです。ところが、金貨で金儲けしているなどという心無い批判もありました。そんなことはないし、むしろ赤字なのですが、皆様のお志で神社が建立できたことに感謝の意を表そうと、ご奉賛いただいた方全員の名前を刻んだ碑が建てられました。

― 神社建立には東日本大震災の犠牲者への追悼の意もあられたとお聞きしました。

大使 その意を記した碑も建ちました。日本ほど自然災害の多い国は世界にありません。地震、津波、火山、台風など幾多の自然の猛威に耐えながら、しかも自然への畏れと感謝の気持ちを持ち続けてきたことが日本人の活力の源泉にあります。神社建立の途中で遭遇した東日本大震災の犠牲者への追悼の思いが、協会にとって神社建立へのさらに強い決意につながりました。

いま、被災地、福島の子供達12、15歳の10数名がスイスとサンマリノにホームステイしています。神社にも訪れてほしいですね。

― 今後、サンマリノ神社に期待することとは？

大使 ずっと続いてほしい。そのために多くの人に訪れてほしい。とくにヨーロッパ人には神社を通じて日本の文化に触れてほしい。来年6月の例大祭は盛大に行いたいですね。合わせて「日本フェスティバル」を開催したい。神社は日本人のシンボルであり、日本文化の基です。もともとサンマリノ神社建立の目的のひ

護國の大神に感謝の誠を捧げましょう



日清戦争の展示



―― 英霊顕彰館 ――

学校では教えない
近現代の正しい歴史ここにあり
英霊の遺された熱功を展示

主祭典日

春季大祭当日祭 四月三十日
同 第二日祭 五月一日
英霊奉謝祭 八月十五日
秋季大祭当日祭 十月二十三日

青葉城鎮座
宮城縣護國神社

980-0862 仙台市青葉区天守台
電話 022(223)7255
FAX 022(223)7269

大理石研磨

- ◇自社開発の研磨機（特許取得）により施工
- ◇全7工程の工法により、光沢復元
(光沢度数80～90 JIS規格)

床面・壁面・テーブル等も研磨致します

株式会社 新生装備

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-3-11
TEL 03-3261-0209 FAX 03-3261-0894
URL <http://www.shinseisobi.co.jp/>



日本サンマリノ友好協会会長でサンマリノ神社建立実行委員会委員長の加瀬英明氏(右端)も参列。左は安倍洋子氏。

とつはヨーロッパに神道の精神を広めたいということでしたし、日本の文化に注目してほしかったからです。そこで、茶道、生け花、盆栽、琴など披露する場を設けたいと思います。神社の素晴らしさは自然から生まれたものであることです。世界にはいろんな宗教がありますが、ほとんどが人間が作り出したものといつていい。神道だけが自然を祭ってきた。仏教が入ってくるまでは、太陽、山、木、岩、滝など自然そのものがご神体だった。仏教と識別するために神社の社殿が生まれたという側面もある。ですから、神道は、宗教というよりも日本人のライフスタイルであり、哲学である。だからカトリックの私が学んでも何の問題もない。自然との調和という、環境問題を先取りするエコ宗教であるという見方も

できるでしょう。だから今こそ世界は神社、神道に学ぶべきなのです。

サンマリノ神社建立の過程で苦労したことのひとつは、神社、神道に対する誤解です。日本人の中にも神社を敵視し批判する人達がいました。なかには神社を戦争賛美というような批判もありました。とんでもない神社、神道と戦争は何の関係もありません。かつて戦争に利用されたからといって神社を批判するのであれば、キリスト教を始め世界中の宗教が批判の対象となります。戦争どころか、世界で最も平和、「和」を重んじるのが神道です。

――靖國神社への批判もあります。

大使 それも大きな誤解のひとつです。イタリアには、ヴェットリオ・エマヌエーレ2世記念堂、アメリカにはアーリントン、フランスには凱旋門の無名戦士の墓など各国に国のために殉じた戦死者を顕彰する聖地があります。同様に日本には靖國神社があります。ただそれだけのことです。「戦犯」とか関係ありません。そんなこと言っていたら、戦死者を祭る資格のある国は世界のどこにもなくなってしまうでしょう。

靖國神社の普遍的な価値を証明す

る有名なエピソードがあります。第二次世界大戦後、GHQ内には、靖國神社を軍国主義の象徴と見なし、焼き払った上に跡地をドッグレース場にしようという動きがありました。これに対し、マッカーサーから意見を求められたローマ教皇庁(ヴァチカン)の臨時駐日代表ブルーノ・ヴィッテル神父は、「いかなる国も、その国に殉じた兵士に対して、敬意を表す権利と義務があり、それは戦勝国、敗戦国問わず平等である。もし、アメリカ軍が靖國神社を焼却したならば、米陸軍の歴史に永久に消すことのできない汚点を刻むことになるだろう」と進言し、マッカーサーは焼却中止を命じたそうです。また、アメリカン・カトリック教会のメリンノール宣教会のバトリック・バーン神父も靖國神社存続に尽力し、「それはプロテスタントとカトリック、ユダヤの教徒がアーリントンの無名戦士の墓で花輪を供えるようなものだ」と一文を認めています。

決して国際政治の問題ではなく、戦死者をどう祭るかという文化の問題なのです。戦死者を悼むという各国共通の姿勢こそ平和の基だと思います。

●祝日に国旗を印刷してある“カレンダー”を、希望者全員に無料で差し上げます。

●健康情報紙“昔話に学ぶ健康法”を、希望者全員に無料で差し上げます。

健康であればこそ、世の中の役に立てます。

株式会社 オカヤマ

岡山県苫田郡鏡野町竹田1110-1(〒708-0324)
Tel. 0868-54-3161 Fax. 0868-54-4004
<http://www.horebore.cleans.jp/>

消臭静菌の純植物性消臭液ニオイノンノは
たった一秒で臭いを消します。

ニオイノンノ

●35cc入り……1,000円 ●100cc入り……2,300円
●500cc入り……10,000円 ●1リットル入り 18,000円
(消費税込み)

ご注文は電話・FAX・ハガキ・インターネット・メールで！

送料無料

平日の16:00までのご注文はその日に発送致します。

お電話 0120-86-1261

FAX 059-345-4164

インターネット www.HB-101.co.jp

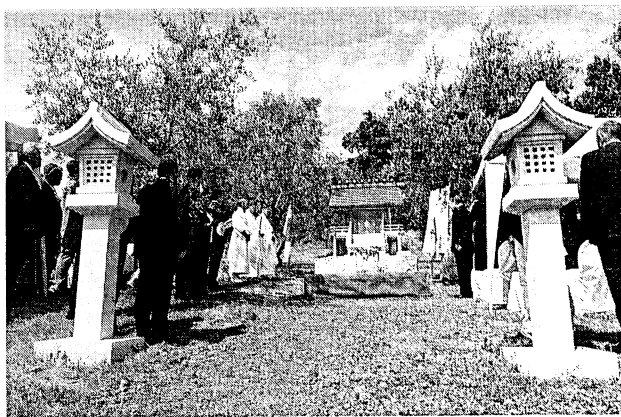
メール info@HB-101.co.jp



バイオ技術で明日を創る

株式会社フローラ

〒510-0855 三重県四日市市地出町3-39



鎮座奉祝祭には300人が参列

▽だから日本は世界から尊敬される

― 大使の近刊書『だから日本は世界から尊敬される』（小学館）には靖國神社のことも含め、神社、神道と日本文化について、分かりやすく書かれています。反響は？

大使 お陰様で各方面でよく読んでいただいているようで、ありがたいことです。一昨日（10月29日）、オランダ国王ご夫妻をお迎えしての宮中晩餐会の折、岸田外務大臣はじめ政

治家の皆さんが感動したと声をかけてくださいました。「日本のことをよく研究してくださって、ありがとうございます」と。

― 日本人として自信がつかますね。

大使 日本人が自信を持てなければ、誰が自信持てますか。それほど日本は素晴らしい国なのです。ただ、今のお話もそうですが、日本人にとっては当たり前とも思える内容の本が売れるというのは、ひょっとしてこんな基本的なことも知らない日本人が増えてきているのか、と心配になります。そういえば、神社参拝の作法でも、私のほうが日本人に教えて差し上げる場面もよくありますね。

私は過去に何冊か本を出していますが、必ずしも言いたいことすべてが表現されたものではありませんでした。それに比べて、この本は言いたいことの9割は言えたという点でも満足しています。来年には英語版が出る予定です。

― どの章も感動しますが、天皇陛下についての章はとくに感銘を深くしました。

大使 陛下に拝謁しますと、凜とした雰囲気包まれます。皇居の中は、まるで神社に参拝したときのような

感動を覚えます。質素でシンプル、なのにエレガントです。やはり宮中の奥深く祈っておられる陛下の雰囲気が皇居全体に満ちているのです。う。そして両陛下の立ち居振る舞いは優雅で、細やかな心づかいにいつも感動させられます。謙虚で聞き上手でいらつしやいます。晩餐会でのスピーチはいつも素晴らしいのですが、印象的なのは、陛下は決してネガティブなことはおっしゃらないということです。いつもポジティブ、前向きなご姿勢をスピーチでお示しになっておられます。

▽尊敬すべき天正遣欧少年使節

― さきほど福島の子供たちの欧州訪問のお話がありました。が、ご著書の冒頭と最後の章には、400年以上前、その福島の子供達と同年代の頃、ヨーロッパに渡った、天正遣欧少年使節のことが書かれています。

大使 彼らこそは、日本最初のヨーロッパへの大使でした。日本史の、いえ世界史のヒーローですよ。なのに当の日本人が彼らのことをあまり知らないということが残念でたまりません。私は長く日本を愛し日本の

文化文明に憧れ続けてきましたが、その原点にあったのは、初めてヨーロッパに登場した日本人である、天正遣欧少年使節団の偉業だったのです。― ご本を執筆中に、使節団の一人、伊東マンシヨの肖像画がイタリアで発見されたというの、劇的ですね。

大使 スペインかポルトガルの正装に近い服装に身を包んでいる姿は恰好いですね。マンシヨをはじめ当時13、14歳の少年たちが天正10年（1582）、長崎を出発してマカオ、インド、ポルトガル、スペインを経てローマに入り、同13年（1585）、教皇グレゴリオ13世に拝謁したというのは、奇跡に近いことです。航海途上でラテン語を勉強し、ヨーロッパ各地で、現地の人々から日本に関する質問責めにあったときにも堂々と受け答えしたという姿勢は素晴らしい。彼らのラテン語の筆跡が博物館に残されていますが、きれいな筆致です。まさに「日本最初のヨーロッパ大使」でした。

日本にはそんな素晴らしい先人たちがたくさんいます。今の若い世代にはもっともっと日本のことを勉強して世界に発信していったほしいと思います。（10月31日インタビュー）

神代のままに、出雲大社で結婚の儀

高円宮典子女王殿下と千家国麿権宮司



結婚の儀に臨まれる典子殿下と国麿さん
(10月5日、出雲大社) [時事]

10月5日、高円宮家の次女、典子女王殿下と、出雲大社権宮司の千家国麿さんの結婚の儀が、島根県の出雲大社で行われた。

典子女王殿下には、納采の儀(7月4日)、告期の儀(9月9日)を経て、10月2日には、「賢所皇霊殿神殿に謁するの儀」で宮中三殿の神々に奉告の後、皇居・宮殿にての「朝見の儀」に臨まれ、天皇皇后両陛下に御礼を述べられ、両陛下から温かい祝福のお言葉を賜った。

典子女王殿下は、平成14年に薨去

された高円宮憲仁親王殿下と同妃久子殿下の次女として、昭和63年にご誕生。大正天皇の曾孫にあたられる。

千家国麿さんは、第84代出雲国造、出雲大社宮司の千家尊祐さんの長男。

「今でも見守ってくださると信じております」——成年なされたときに亡き父君、高円宮殿下をこう偲ばれ、また、公務について「母に少しずつ学んでいければ」と述べておられた典子殿下。久子殿下は、ご結婚内定の折に「常に感謝の気持ちと奉仕の心を忘れず、日々の務めを果たしてほしい」と祝福された。

両陛下が平成15年に、出雲大社にご親拝になつた折、皇后陛下には、「出雲大社に詣でて」と題されて国譲り祀られましし大神の奇しき御業を偲びて止まずとお詠みになつ

ておられる。

千家さんは出雲大社に皇族をお迎えることになることについて、「大変畏れ多く、光栄に思っております。私どもの初代(※)が皇祖天照大神の次男と伝えられております。2千年を超える時を経て、今こうして今日という日を迎えたということに深いご縁を感じております」と述べていたが、「国譲り」の神話に由来する皇室と出雲国造の絆が、まさに時空を超えて平成の御代に再び交わった。

昨年は、伊勢神宮の「御遷宮」と出雲大社「平成の大遷宮」が重なったおめでたい年で、その翌年の今年のご慶事に、出雲市の地元はもとより、全国民が、神話に由来するわが国の悠久の歴史に、改めて思いを馳せる機会となったのではなからうか。

出雲大社の結婚式で、おすべらかしの典子さまがお召しになった赤い小袿と長袴は曾祖母、貞明皇后から代々伝わったもの。女性皇族のご結婚は平成17年の紀宮さま(黒田清子さん)以来。典子さまは、ご結婚の日をもって皇籍を離れられた。

(※)天穗日命(あめのほひのみこと)

表紙/[除夜の鐘] 竹中俊裕

- グラビア……………2
- 今月の言葉/加瀬英明……………3
- フォトグラフ……………4
- 正憲法にてこそ祖国は甦る/青山繁晴……………6
- サンマリノ神社建立成って
/マンリオ・カデロ……………8
- 「ビルマのゼロ・ファイター」民族解放の夢
/井本勝幸……………14
- [連載] コーシンの世相談義/高信太郎……………23

- [連載] 日本を取り戻す教育〈第8回〉
/高橋史朗……………24
- [連載] 新教育基本法下の教育改革
/村主真人……………13
- [連載] 支部便り/東京都・板橋支部……………26
- ネットワーク日本会議……………28
- [連載] 子育て支援塾/田下昌明……………30
- 息吹の広場……………31